

パニック状態の犬に蹴られて顔を負傷した時の応急対応例

佐藤 敦

男性 19歳

【主訴】 顔の怪我（切傷）、出血・腫れ

【具体的内容】

犬の散歩中、傍を通り掛かったバイクの音に驚いた犬がパニック状態となった。それを宥めるため犬を抱きかかえようとした時、後ろ足で顔を蹴られてしまった。咄嗟の出来事で何が起きたのかわからなかった。片目が開けられない、血も出ている。幸い自宅の近くだったので、犬を抱えて急いで帰宅し、家族に助けを求めた。右目の顔から出血、眼球は数ミリの差で大丈夫だった。顔の傷は深くは無かったが、突然の出来事に本人はとても動揺していた。出血が止まった後は、腫れてきた。

【レメディー選択】（2023年4月3日）

サポート A A A 一粒を直ぐに

Calen.30C , Hyper.30C をリピート(30分毎 各3回)、翌日から晩に各1回2日間
Cクリーム 随時、傷口に塗布

【選択の根拠】

講義で習ったこと及びマテリアメディカを参考にして、以下を選択した。

サポート A A A (Acon. Arn. Ars.) 不安感と出血に即対応するために選択。

Calen. : 傷のNo.1レメディー、切傷、体や心の傷の癒し

Hyper. : 破傷風のNo.1レメディー、動物に咬まれる（今回咬まれてはいないが
犬の爪による切傷）、また事故や怪我のトラウマを残さないために選択。

Cクリーム : 消毒、化膿予防として（外側からも対応）

【経過】

一見して出血していること、非常に動揺していることから、直ぐにサポート A A A を与えた。程なく落ち着きを取り戻したので、傷の具合を確認した。

幸い傷は顔のみ、眼球の方は大丈夫だったので、病院に行くことは見合わせた。

続いて、Calen.を選択、同時に傷口にCクリームを塗った。

さらに、屋外で犬の足の爪による切傷のため、破傷風対策としてHyper.を選んだ。

出血は直ぐに止まり、腫れは2～3日で治まった。5日ほどで傷口はほぼ完治した。

【考察】

怪我の時には、外傷にばかり注目してしまうが、心の動揺を落ち着かせることも大事。また、Cクリームで外側からも対応することで、驚く速さで傷口がきれいになった。